

事業所名 グループホーム町屋
運営推進会議開催報告書

開催日時 2021年 6月 27日(月)	
参加者(意見照会)	議 題
利用者 0名	① 行事報告
利用者家族 1名	② 行事予定
地域住民の代表者 0名	③ 意見照会
市職員 1名	④ 身体拘束適正化検討委員会
地域包括支援センター職員 1名	⑤ その他
事業所 0名	
会 議 録	
<p>① 行事報告</p> <p>【1号館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月13日 母の日の行事を行いました。昼食にサンドウィッチ、ホットドッグ、フルーツみつ豆をお召し上がり頂きました。職員よりカーネーション・写真立てをプレゼントさせて頂きました。 ・ 5月25日 昼食のちらし寿司・いなり寿司作りをしました。利用者様には、お米研ぎ、野菜を切り、いなり寿司詰めをお手伝いして頂きました。ちらし寿司・いなり寿司などを昼食時にお召し上がり頂きました。利用者様も美味しそうにお召し上がり頂く事が出来ました。 ・ 5月31日 今年度1回目の日中想定避難訓練がありました。今回は、14時に地震が発生後、火災が脱衣場から起きたと想定し、避難訓練を行いました。利用者様には玄関の外まで避難して頂きました。全体の避難時間は4分58秒にて玄関外まで全利用者様が避難出来ました。 ・ 6月1日 利用者様・職員のコロナワクチン1回目の接種がありました。 ・ 6月17日 昼食の餃子作りをしました。利用者様には、お米研ぎ、野菜を切り、餃子作りをお手伝いして頂きました。昼食時に皆さん、美味しそうにお召し上がり頂きました。 ・ 6月22日 利用者様・職員のコロナワクチン2回目の接種がありました。 <p>【2号館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月12日 母の日の行事を行いました。おやつにお好み焼き・焼きそばをお召し上がり頂きました。職員よりカーネーション・写真立てをプレゼントさせて頂きました。 ・ 5月25日 昼食のちらし寿司・いなり寿司作りをしました。利用者様には、お米研ぎ、野菜を切り、いなり寿司詰めをお手伝いして頂きました。ちらし寿司・いなり寿司などを昼食時にお召し上がり頂きました。利用者様も美味しそうにお召し上がり頂く事が出来ました。 	

- ・ 5月28日 今年度1回目の日中想定避難訓練がありました。今回は、14時に地震が発生後、火災が脱衣場から起きたと想定し、避難訓練を行いました。利用者様には、東屋まで避難して頂きました。全体の避難時間は8分6秒にて東屋まで全利用者様が避難出来ました。
- ・ 6月1日 利用者様・職員のコロナワクチン1回目の接種がありました。
- ・ 6月17日 昼食の餃子作りをしました。利用者様には、お米研ぎ、野菜を切り、餃子作りをお手伝いして頂きました。昼食時に皆さん、美味しそうにお召し上がり頂きました。
- ・ 6月22日 利用者様・職員のコロナワクチン2回目の接種がありました。

② 行事予定

【1号館・2号館】

- ・ 7月 セタ・うなぎ
- ・ 8月 そうめん

③ 意見照会

◆ご家族様：いつもお世話になっております。毎日、母が1日1回でも笑顔で過ごす事が出来ればと思います。これからも宜しくお願い致します。

⇒ご意見ありがとうございます。利用者様が笑顔でお過ごし頂ける様に思い取り組んでいます。それに合わせて職員も笑顔で働く事が出来る施設を目指していきます。

◆瀬戸市高齢者福祉課様：避難訓練についてですが、今年度1回目の日中想定避難訓練を行なわれていますが、良かった点、反省点はどのような事でしたか？
また、1号館と2号館で、避難時間に3分程の差がありますが、その原因は何によるものでしょうか？

⇒ご意見ありがとうございます。まず、良かった点は今回も避難訓練による事故がなく速やかに、安全に避難訓練が無事に終わりました。次に、反省点は職員同士の避難訓練時に置ける声掛けが少なく、連携が出来なかった点です。今より声を掛け、職員同士がとっさの状況判断をして連携が出来る事でより良い訓練が出来ると思います。これは、日々の業務にもプラスとして繋がってくるのではないかと思います。

また、1号館・2号館の避難時間の3分の差ですが1号館は玄関外まで、2号館は東屋まで今回避難を行いました。3分の差は、避難場所までの距離と建物の大きさなどが考えられます。

◆やすらぎ地域包括支援センター様：お世話になっております。いつもご丁寧なご報告ありがとうございます。特に意見はございません。今後とも宜しくお願い申し上げます。

⇒ご意見ありがとうございます。コロナ過により、現在、面会の制限や運営推進会議を中止しています。少しでも、ご家族様や関係者の方々に利用者様の近況や施設での行事の雰囲気伝わればと思います。今後とも宜しくお願い致します。

④ 身体拘束適正化検討委員会

◆まとめ

今回は「転倒」をテーマにさせて頂きました。転倒は事故の中でも常に起こりえる可能性があります。施設では、転倒リスクが高い方を中心に見守りや付き添いを行っていますが転倒をゼロにする事は難しいです。何故なら、24時間常に付き添う事が難しく、居室内、トイレ内でも起こりえます。転倒されると高齢者の場合、大きなけが（大腿骨骨折など）に繋がります。職員が転倒を防ぎたい為に、椅子から立ち上がれないように椅子の後ろに物を置いて立ち上がれないようにする。また、ベッドから降りられないようにベッド柵を四点柵にする事は身体拘束になります。まず、椅子から立ち上がれないようにすると、より下肢筋力の低下を招き、歩行時に転倒のリスクが高くなります。また、座っている時間が長いと、褥瘡になる事もあります。立ち上がりたいのに、立ち上がれない環境を作ると意欲の低下にも繋がります。次に、ベッドから降りられないようにする事は、逆にベッド柵を乗り越えて、無理な体制で降りようとされ大きな事故に繋がる事があります。椅子から立ち上がれない、ベッドから降りられないようにする事は、転倒より、より大きな問題が生まれます。町屋では、身体拘束を行っていません。椅子から立ち上がられたら、可能な限りすぐに駆けつけます。そこで座らせるのではなく、立ち上がった理由をお聞きしています。また、下肢筋力の低下を防ぐためにトイレに歩いて行く事も施設内での生活リハビリの一つだと考えています。ベッドからの立ち上がりに関しては、個々の状態に合わせてベッドの向きや配置、今ある家具を使って手すり代わりにするなど、導線を考えたりする事で転倒を少なくし、大きな事故につながらない様にする事を目標としています。

⑤ その他

5月下旬に愛知県の要請により、職員対象のPCR検査を行いました。全員陰性でしたのでご報告をさせていただきます。